特別寄稿

化粧品OEM企業が切り拓く新市場―エアゾール剤型の価値と応用可能性

ピカソ美化学研究所
代表取締役社長　八木　伸夫

1．はじめに――変化する市場とエアゾール剤型への期待

化粧品市場における競争環境は、近年かつてないほどの激しさを見せている。韓国ブランドの旺盛な輸出攻勢、中国ブランドの急成長、そして多発化する販路、こうした変化の中で、日本発の化粧品が改めて注目されるには、単なる品質の良さだけでは不十分であり、使用感・利便性・独自性を兼ね備えた差別化が必要とされている。ピカソ美化学研究所では、こうした市場環境の中、改めてエアゾールという剤型に着目し、独自の処方技術と組み合わせることで「売れる商品」の開発に挑んでいる。

売れる商品とは、単に一時的な話題性や価格競争に依存するものではない。むしろ、消費者が繰り返し手に取り、日常の中で自然と使い続けたくなるような製品であることが求められる。そうした商品を生み出すために、企業としての姿勢や研究開発体制、そして市場に対する観察眼が不可欠であり、その実践の一つが、当社が取り組むエアゾール応用の製剤開発である。

2．BOV技術による革新的染毛効果と利便性を両立するヘアカラートリートメントの新提案

当社が現在、生力して提案しているのがBOVパッケ・オン・パルプ）技術を用いたエアゾールタイプの「BOVヘアカラートリートメント」（写真1）である。これは、今年5月のCITE JAPANで初披露した当社の最新提案であり、1回でしっかり染まる）独自処方が最大の特長である。

BOVは原液（中身処方）と噴射剤の二重構造で構成されているため、原液などの他の硝成部材との接触がなく衛生的で、安定した吐出で粘性の高い原液でも吐出が可能などの特性があるBOVを採用することで、今回、当社では、2種（塩基性とHCの染毛料を高濃度で安定配合し、濃厚なクリーム状製剤を実現。プラン形状の薄型タッチメントにより、手を汚さず簡単に塗布できる利便性もレー」（写真2）は、顔にも使用でき、PM2・5や花粉のカット機能も備える利便性に優れた多機能性アイテムである。特に、エタノールに対する感受性が高まっている昨今の市場環境において、アルコールフリー処方は「低刺激」「安心設計」といった肌へのやさしさという価値を付加するものとして評価されており、海外展開における武器にもなり得る。中国薬案対応処方としても提案可能で、さらにはより安心・安全が重視されるベビー製品等への展開にも貢献できる製品として市場に提案していく。

なお、当社がエアゾール剤型の応用は、単なる高機能ヘアカラーにとどまらない。BOVシステムにより、最後まで中身を無駄なく使用でき、ユーザー満足度や環境面にも配慮した設計」とした